

令和三（2021）年度生 農業生産学部一般入学試験（後期） 国語総合

※ 答えはすべて解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

受験番号	氏名
------	----

問題一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

紋切型<sup>注</sup>のことを書くこうと思つたとき、突然、あの大阪万博公園の「太陽の塔」の姿がありありと見えてきました。（a）高さ六十五メートルの巨人は、制作者、岡本太郎の生涯がそうであったように、①ムれることなく、独りぼっちでいまも立っています。

塔には  ※ おおらかさがあります。正面の太陽の顔はガキ大将の太郎の顔です。

岡本太郎は自分の作品の獨創性を強調していますが、たしかにこの塔ほど紋切型というものと②エンドオウ作品はないでしょう。四十年近くをへた今日でも塔は見るものの胸に、きわめて「ペラボウなもの」を強く③ハゲしく放射しています。

太郎は「ものを作る」ことを人にすすめるため、こんな言葉を残しています。

「手で作るといふのは、実は手先ではなく、心で作るのだ。生活の中で、自分の情熱をそこにつき込んで、ものを作る。楽しみ、解放感、そして何か④ボウケン、つまり、うまくいかないのではないか、失敗するかもしれない、等々いささかの不安をのり越えながら作る。そこに生きている夢、生活感のドラマがこめられている。心が参加して、なまなましく働いていることが手づくりの本質だと言いたい」

ものを作るとき、器用である必要はない。

「むしろ下手のほうがよいのだ。笑い出すほど不器用であれば、それはかえって楽しいのではないか。平気でどんどん作って、生活を豊かにひらいていく。そうすべきなのである。意外にも美しく、いいものが出る。」

いい言葉です。岡本太郎が「作る」という動詞で説明しているところを「書く」という動詞に変えて読み直して下さい。（b）そのことを太郎は予期していたのだと思うほど、この文章は「書く」という行為のきわめて大切な部分をいいあてているように思えてなりません。

ものを書くうえで （c）独自の世界をめざす、ということとは「紋切型」と⑤カクトウしながら書くということでしょう。そういう大切なことの数々を太郎は教えてくれています。

（辰濃和夫 「文章のみがき方」）

注 紋切型。①紋型を切り抜くための型。②決まりきった型式。型どおりのやり方や見方。おさだまり。

問一 傍線①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 文中の空欄  ※ に次の語群の中から、最適な語を選んで入れ、記号で答えなさい。

ア 野暮な      イ 厳格な      ウ 野放図な      エ 気品あふれる      オ 野蛮な

問三 破線（a）～（c）高さ六十五メートルの巨人」とは、何ですか。文中の語で答えなさい。

注 このような比喻を何といいますか。次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 直喩法      イ 隠（暗）喩法      ウ 擬人法      （次ページに続く）

問四 破線(b)「そのこと」はどのようなことを指していますか。文中の語を用いて、20字～30字程度で説明しなさい。

問五 破線(c)「独自の世界」とありますが、文中より、この言葉に近い5文字以内の言葉を抜き出して答えなさい。

問題二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

徳島県鳴門市は ①渦潮で名高いが、ドイツから訪れた観光客にはもう1カ所、良く知られた場所がある。第一次大戦中、1千人のドイツ兵を受け入れた「板東俘虜収容所」の跡地である。閉鎖から来年で100年の節目を迎える。

「ドイツで有名になったのは、収容所長だった松江豊寿の功績です」と森清治・市ドイツ館長。収容所跡に近い記念施設だ。軍人である松江所長は「ドイツ兵も自国のために戦ったのだから」と部下に説き、捕虜たちをA遇した。

捕虜たちにスポーツや音楽活動を認め、ベートーベン「第九」のアジア初演もこの地で実現させた。当時、世界中で猛威をふるったスペイン風邪が所内に及ぶと、牛乳やスープ、体温計などを捕虜に与え、消毒にも努めた。

陸軍の上層部から「捕虜に甘すぎる」と批判もされたが、方針を変えない。父が会津藩士で、②戊辰戦争では薩長率いる官軍に敗れ、暮らしては困窮。自身も陸軍内でB遇された。「敗者を辱めてはならぬという信念を持っていました」と森館長は話す。

上にはきびしく、下に優しい性格だった。上官にも妥協せず、望まぬ転動もあった。③退役後は故郷の市長となり、④白虎隊の墓の整備などに尽くしたという。経歴を追うと、(1)「武士の情け」を重んじ、弱者や敗者の側に立つ姿が浮かぶ。

鳴門市はいま、日独4自治体でユネスコ「世界の記憶」の登録をめざす。(2)戦勝国と敗戦国が⑤恩讐を越え、世界に名乗りをあげるとは、松江所長もC見できなかっただろう。

(朝日新聞 天声人語 2020 3月)

問一 傍線①～⑤の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

問二 文中の□A・B・Cに、漢字一字を入れ、文の意味が通るようにしなさい。漢字は次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 厚 イ 予 ウ 上 エ 下 オ 温 カ 冷 キ 知

問三 傍線(1)「武士の情け」とありますが、それに当たる表現を、文中より2カ所、それぞれ20字以内で抜き出して答えなさい。

問四 傍線(2)とありますが、ここで言う「戦勝国」と「敗戦国」は、それぞれ何処ですか。次の中から選び記号で答えなさい。

ア 会津藩士 イ 薩長率いる官軍 ウ ドイツ エ 日本